

解答は別紙の解答欄に記入しなさい。

I (イ)～(ニ)は、中国古代史を題材とした漢詩に関する解説文である。これらを読んで、設問に答えなさい。

(イ) 燕の太子丹は、かつて秦の人質となっていた時、幼なじみの秦王政から冷遇を受けた。丹はこの恨みを晴らすため、また迫り来る秦軍の脅威を打ち払うために、秦王政の暗殺を企て、荊軻を刺客として差し向けた。いざ荊軻が秦の都(A)へ向けて旅立つ時、丹や賓客らは白い衣冠(喪服)で易水(燕の西南を流れる川)のほとりまで同行し、そこで彼を見送った。別れ際に、荊軻は友人の高漸離が奏でる筑の音に合わせて、「風蕭蕭として易水寒し、壮士一たび去りて復た還らず」と歌い、振り返ることもなく去っていった。初唐の詩人駱賓王の「易水送別」と題する詩は、こうした荊軻の悲壮な故事をふまえて詠じたものである。

| | | |
|-------|------|-------|
| 此地別燕丹 | ③ 此地 | 燕丹に別れ |
| 壯士髮衝冠 | 壯士 髮 | 冠を衝く |
| 昔時人已沒 | 昔時 人 | 已に沒し |
| 今日水猶寒 | 今日 水 | 猶お寒し |

——ここ易水のほとりは、かつて荊軻が燕の太子丹と別れた場所だ。その時、壮士荊軻の髪は悲憤慷慨のあまり冠を突き上げんばかりであった。遠い昔の人々はもうみな死んでいなくなってしまったが、易水の川の水だけは今日もなお寒々と流れている。

秦の宮殿に入った荊軻は、計略を実行に移すが、あと一步のところまで失敗に終わり、その場で斬り殺された。荊軻の事跡は、『史記』の「刺客列伝」や『(B)』の「燕策」などに記されている。

(ロ) 洛邑に遷都した後、周王朝は求心力を失い、斉の桓公、晋の文公ら有力諸侯たちが互いに勢力を争うようになる。長江下流域では、呉と越が激しい抗争を繰り返していた。はじめ呉王闔閭は越を討とうとして敗れ、その戦いで負傷して死んだ。父のあとを継いで呉王となった(C)は復讐を誓い、仇を忘れないよう朝夕薪の上に臥してその苦痛に耐え、ついに越王勾踐を会稽山に追い詰めて降伏させた。勾踐は赦されて国に帰ったが、つねに苦い胆を嘗めて自らを奮い立たせながら富国強兵に努め、とうとう呉を攻め滅ぼした。「臥薪嘗胆」の成語で知られる呉越興亡の歴史故事である。盛唐の詩人李白は、越の都の旧跡を訪れて古を偲び、「越中覽古」と題する詩を歌っている。

越王勾踐破呉歸　越王勾踐　呉を破りて歸る
 義士還家尽錦衣　義士　家に還りて　尽く錦衣す
 宮女如花満春殿　宮女は花の如く　⑤春殿に満つ
 只今惟有鷓鴣飛　只今　惟だ鷓鴣の飛ぶ有るのみ

——越王勾踐が呉を打ち破って凱旋した。忠義の家臣たちは、わが家に帰ると、みな恩賞として与えられた錦織りの衣を着て暮らした。勝利を祝う越の宮殿では、大勢の宮女たちが、春の御殿に満ちあふれる花のように艶やかさを競っていた。ところが、その地も今は廃墟となって、ただ鷓鴣が悲しげに鳴いて飛びかうばかりだ。

この詩は、越王勾踐が「会稽の恥」をすすいで凱旋した後の華やかな越の国の様子を歌いつつ、かつてはそのように栄華を誇った英雄も、絢爛を極めた宮殿も今はないという人の世のはかなさに対する感慨を詠じている。

(ハ) 西施・貂蟬・楊貴妃と並んで中国四大美女の一人に数えられる王昭君は、北方遊牧民の匈奴との和親政策のため、後宮から選ばれて ①匈奴の王に嫁いだ。王昭君の伝記は、正史では『漢書』と『後漢書』に見えるが、後者の記載によれば、彼女は後宮に入ったが帝から何年も顧みられず、自ら匈奴に嫁すことを志願したという。ところが、『西京雜記』や『世説新語』などには、当時帝は肖像画によって召見する宮女を選んでしたが、王昭君は画工に賄賂を贈らなかったために醜い肖像画を描かれ、それゆえに匈奴の王に嫁がされることになったという逸話が記されている。李白の「王昭君」と題する詩は、この悲劇の女性の事跡を歌ったものである。

昭君払玉鞍　昭君　玉鞍を払い
 上馬啼紅頬　馬に上りて　紅頬に啼く
 今日漢宮人　今日　⑥漢宮の人
 明朝胡地妾　明朝　胡地の妾

——王昭君は立派な鞍をそつとなで、いざ馬にまたがると、その若く美しい頬に涙が流れる。今日は天子の宮殿にいる人が、明日はえびすの地の妾となるのだ。

王昭君の故事は、後世広く伝承され、史実とは異なる虚像が形作られていった。彼女の悲話は、歴代多くの文学作品の中で語られ歌われているが、とりわけ元代の馬致遠の戯曲『(D)』が名高い。

(二) 齊・楚・燕・韓・魏・趙・秦の七つの強国が並び立つ中、法家の商鞅による政治改革などで国力を充実させた秦は、やがて次々に東方の諸国を滅ぼし、紀元前（ E ）年、ついに天下統一を果たした。始皇帝は、全国に郡県制を施行し、度量衡・文字・貨幣の統一をはかるなど、中央集権化を強力に推し進めた。その一方、体制を固める政策として、焚書・坑儒と呼ばれる思想統制・言論弾圧を断行し、医薬・卜筮・農業以外の書物をすべて没収して焼き、数百人の儒者を穴埋めにして殺した。晩唐の詩人章碣の「焚書坑」と題する詩は、こうした始皇帝の暴挙を辛辣に諷刺した詠史詩である。

竹帛煙消帝業虚 竹帛 煙消えて 帝業虚し
関河空鎖祖竜居 関河 空しく鎖す ④祖竜の居
坑灰未冷山東乱 坑灰 未だ冷えざるに 山東乱る
劉項元来不讀書 劉項 元来 書を読まず

——竹簡や帛書を焼いた煙が消えると、天下統一の大事業も虚しく崩れ去った。今はただ函谷関や黄河などの天險が、いたずらに始皇帝の居た場所を囲み守っている。書物を焼いた穴の灰がまだ冷えきらないうちに、山東（崑山あるいは華山以東の地）では ②農民の反乱が起こった。これを機に挙兵した劉邦も ③項羽も、もともと書物など読まぬ者たちであった。

この詩は、秦の苛酷な弾圧を嘲笑的な調子で歌っている。始皇帝は王朝を安泰に保つために、体制を揺るがす恐れのある儒家および諸子百家の書物をことごとく焼き捨てた。ところが、皮肉なことに、秦を滅亡に追い込んだ劉邦と項羽はどちらも学問には縁のない男だったのである。

設問 1

空欄（ A ）～（ E ）にもっとも適切な語句を、漢字またはアラビア数字で記入しなさい。

設問 2

- ① 下線部 ① を意味する称号を漢字 2 文字で何というか。
- ② 下線部 ② の反乱を主導した人物で、「王侯将相いずくんぞ種あらんや」という言葉で知られるのは誰か。
- ③ 下線部 ③ の人物と関連のある成語を次の中から 1 つ選び、番号で答えなさい。
 - 1 国土無双 2 暴虎馮河
 - 3 四面楚歌 4 酒池肉林
- ④ 下線部 ④ ～ ⑤ について、その位置する場所が現在の上海にもっとも近いものを記号で答えなさい。
- ⑤ 漢詩の中で歌われている歴史故事の時代が古い順に、(イ) ～ (二) を並べかえなさい。

Ⅱ 以下の文章を読み、空欄（ A ）～（ O ）にもっとも適切な語句を記入しなさい。

2009年7月22日の皆既日蝕は、日本で大きなショックを惹き起こすことはなかったようだが、暗闇に転じた外国の映像をテレビで見ると、その場にいたならば、畏怖の念を禁じ得なかったろうと思えた。まして昔の人々はどのように感じたであろうか。

11世紀ヨーロッパに生きた修士ラウル・グラベルは「ひじょうに恐るべき日蝕が生じた。太陽がサファイア色になり、その上部4分の1が月のようなかたちとなって、光を放っていた。人々にはお互いが蒼白い死者のように見え、あらゆるものがサフラン色の霧に包まれているように見えた。そのとき人類の心を大きな驚愕と恐怖が占めた」と記し、他の箇所では、彗星の到来を「神によって、新たな星が送られたのか、あるいは予兆のために既存の星の光が大きく増大させられたのかは、神ご自身のみが知っている。神は、その言い表すことができない叡智によって、すべてを支配している。確かなことは、何かこのような不思議が起こったとき、いつもすぐに驚き畏怖すべき事件が世界に示されることである」と述べている。日蝕などの自然現象は神の意志の表れとされ、原因が分からない、いわばブラック・ボックスの所産とされていたのであろう。古代の自然哲学者（ A ）は紀元前585年の日蝕を予言したというが、中世ヨーロッパにおいて自然現象を合理的に予測するという発想は見出しがたかった。

このようなヨーロッパ中世の人々の自然観にとって大きな転機となったのは、11世紀頃からのギリシア・ローマの遺産の復活やイスラームの学問の流入だった。これらの学問は、自然現象を全能の神の意志の表れであると単純には見なさなかった。これは天変地異を予測不能なものとして受けていた人々には新鮮で、ものごとを合理的に考察しようとする刺激となった。この動きを促進したのが、長くイスラーム支配下にあつてキリスト教君主たちによって征服されたシチリア島やスペインの諸都市、特にトレドなどで行われた翻訳活動であった。これらの地にはアラビア語あるいはギリシア語などを理解する人々がいたからである。実際的な学問の翻訳が進められた。ヒポクラテスやガレノスあるいはアラビアの医学書、数学、またプトレマイオスの主著（ B ）などの天文学書などである。これらと並んで多くの哲学書なども西欧に流入し、特に12世紀スペインのコルドバに生まれ法学・医学・天文学などにも通じた哲学者（ C ）によるアリストテレス解釈は、その理性主義によって西欧人を魅了した。ただ、このアプローチには必ずしもキリスト教とは一致しない点があった。たとえばキリスト教は「世界は創造されたもので永遠ではない」とするが、（ C ）が「世界は創造されたものではあるが、永遠である」とする点などである。これはラテン世界の教会には脅威であった。この脅威に反論しつつ、同時に総合を図ったのが『神学大全』で知られるイタリア人（ D ）であった。彼にはキリスト教信仰も合理的な世界理解の魅力も否定できなかったのであろう。だがこうしたキリスト教とアリストテレス学を総合しようとするスコラ学の企てには困難な点があった。14世紀に活躍したイギリス出身のフランシスコ会士で、教皇を非難して破門された（ E ）は、

「(E) の剃刀」という表現で知られるように論理の簡明さを重んじ、信仰と理性、神学と哲学を区別すべきであるとしている。信仰と理性が固有の立場を主張するようになっていたのである。

11世紀以降顕著になっていった世界の法則性を解明しようという傾向はさまざまな面に及んでいる。これには実際の技術革新が、それまで支配的であったキリスト教信仰あるいはギリシア・ローマやイスラームの遺産でさえも十分に説明できなかったことを明らかにしたのも影響していよう。たとえば15世紀後半のフィレンツェの知的サークルでは、空間を平面に写し取ることが企てられていた。フィレンツェ大聖堂の大円蓋設計で知られる(F) は、透視図法で建物を描いたが、小穴の開いた板絵と鏡によって、その小穴からのぞくと建物と背景が立体のように見えたと伝えられている。彼と親交があった数学者トスカネリの地図は(G) の航海に影響を与えたともいわれている。また観測や実験が重視されるようになっていった。初めて木星の衛星を望遠鏡で見たといわれる(H) の例に見られるようにである。ただこのように理性を優先しキリスト教に疑義を呈する態度は教会当局の弾圧を招き、汎神論と地動説を説いた(I) は1600年にローマで火刑に処せられている。

キリスト教から独立して理性の領域を主張する傾向は、数学的力学的世界観を拓いた17世紀フランスの(J) で画期をなす。彼は伝統的なスコラ学の方法に疑いを抱き、新しい思索の方法を拓いた。彼の「cogito ergo sum」という言葉は有名だ。彼の思想は、続く多くの世代に影響を与えた。だが科学はまだ魔術とは十分にわかれてはおらず、古典力学を確立し『プリンキピア』を著した(K) も、ある時期は錬金術に打ち込み、「最後の魔術師」とさえ評せられることもあり、また神学や聖書を熱心に研究していたという。

このような風潮の中で16・17世紀頃に成立するのが理神論である。これは創造者としての神は認めるが、創造以降の宇宙は、自らの法則にしたがって自己展開する存在であり、神の干渉、たとえば奇跡や予言はないとする思想である。全能の神も自然法則を守るのである。ただここでもキリスト教の権威を一気に否定することはなかった。フランスなどの啓蒙思想家たちに深い影響を与えたロックは理神論者とされることもあるが、彼は啓示を認め、人間は神の摂理によって定められた義務を果たすべき存在であると確信し、理性と聖書の権威が両立することを求めている。ロックの影響を強く受け、『哲学書簡』を著したフランスの哲学者(L) は、教会の悪弊を糾弾し、宗教的不寛容を攻撃したが、有用性をもつ限りにおいて宗教の必要性を認めていた。

18世紀末になると、さらなる段階に達する。1799年総裁政府によって正式に採用されたメートル法は、パリを通る子午線の4千万分の1を1メートルと定めたが、それまで慣習などによっていた基準単位を科学上の事実と関連付けており、これは啓蒙思想が含む合理主義の影響とされる。新たな世界理解が力をもった。宇宙の成立を科学法則によって説明しようとして、宇宙進化説を説いたフランス人の天文・数学者(M) の主張はキリスト教の創造説に背くものであったし、生物は神によって創造されたのではなく、環境に応じて進化してきたとするイギリス人(N) の主張は、

のちの宗教観や社会観に多大な影響を及ぼした。だが「宗教と科学」という問題は難しく、「相対性理論」を説き、20世紀の物理学に大転換をもたらしたユダヤ系理論物理学者（ O ）は、「宗教は子どもじみた迷信」と述べたとされる一方で、単純で美しい宇宙の法則を求め、自然界の諸力を統一しようという統一場理論の研究を続けた。これは彼の宗教観の反映であるのかもしれない。

Ⅲ 以下の文章を読み、空欄（ A ）～（ E ）にもっとも適切な語句を入れなさい。また下線部①～⑩に関する設問に答えなさい。

新石器時代から近代に至る長い時間の中で、ヨーロッパの人々が衣服製造に用いた材料について考えてみると、羊からとる羊毛と、亜麻、大麻などの茎からとる繊維のように身近にある材料をまず挙げることができるだろう。これらの材料以外に、王侯・貴族などは、外国から輸入された高価な材料で身を飾り、その身分の高さを誇示した。

イギリスではエドワード3世治下の1337年に贅沢禁止法が出された。この法令の内容は、おおまかにまとめれば、輸入品の毛織物と毛皮の着用を王族などにのみ認めるといったものだった。ここでいう毛皮とは主に「白テン」の毛皮をさし、^①バルト海地方から輸入されていた。王侯はこの上等で美しい毛皮を大変好み、エリザベス1世もその父王（ A ）も戴冠式当日にこの毛皮のマントを身にまとったとされる。フランス人の新大陸への進出の歴史をみると、かれらもまたビーバーの毛皮の交易を求めてカナダへ到達し、^②1608年にはアメリカ大陸におけるフランスの最初の植民地としてケベックを建設した。ビーバーは、毛皮のままではなく柔らかな内毛の部分だけがフェルト地に加工され、パリで高級帽子に仕立てられ、大流行し、イギリスではジェントルマンの必需品となった。しかし、^③17世紀末にこの帽子製造に携わっていた職人が多数フランスを離れてロンドンに移動したため、これ以後はロンドンが製造の中心地になったといわれている。

上記の贅沢禁止法が出された直後に英仏間で百年戦争が始まったのだが、この戦争勃発の契機にも毛織物が関係していた。当時、イギリスの毛織物生産の技術水準、とくに仕上げ工程のそれはいまだ低かったので、高級な毛織物は輸入品だった。すなわち、イギリスは羊毛を輸出していたのであり、その主要な輸出先の（ B ）伯領の支配をフランスがねらったことと、フランスの（ C ）朝断絶後の継承問題が、戦争勃発のきっかけであった。百年戦争は断続的に続いたが、戦局はイギリスに有利に展開し、1360年には教皇インノケンティウス6世の仲介を得て暫定的な和平が成立した。兵士たちが戦利品を持ち帰ったイギリスでは奢侈の風潮が広まり、ふたたび贅沢禁止法が出された。

さまざまな身分の者が身分違いの華美な服装をしていたので、それが非難され、身分にふさわしい格好をすることが求められたのである。百年戦争中には気候の寒冷化が起こり、食糧生産量が減少し、疫病が蔓延し、人口の減少が起こった。領主は労働人口を確保するために農民に譲歩せざるを得なくなり、^④ その結果、農民の待遇は改善された。しかし、困窮した領主はふたたび農民に対する束縛を強めようとしたので、農民はこの傾向に反発して各地で抵抗し、イギリスではワット＝タイラーの乱が起こった。その指導者のひとり（ D ）は「アダムが耕しイヴが紡いだときだれが領主だったか」と述べて身分制度を批判したが、このことばはまた、糸を紡ぐのが農村の女性の日常的な仕事だったことを示している。

こののち、イギリスは羊毛輸出国から毛織物輸出国へと変貌していくが、そのほとんどが半製品で、染色と仕上げの工程はやはり大陸でなされていた。16世紀にその製品はもっぱら ネーデルラントの取引市場へ向けて輸出されて、染色・仕上げされたのちに最終消費地へと送られた。^⑤しかし、この国際的な仲継市場としての機能を果たしていた都市がネーデルラント独立戦争のさいに陥落したために、イギリスの毛織物工業は大きな打撃をこうむった。独立後のオランダには南ネーデルラントから多数の毛織物生産者が亡命し、オランダの毛織物がイギリスの毛織物と競合するようになった。また、^⑥ 17世紀前半に中部ヨーロッパが戦場と化したことでイギリスはさらに市場を失った。ジェントリたちは新しい作物を導入したり、従来は輸入していた商品の製造を試みたりしたので、この時代を「実験企業の時代」と呼ぶことがある。その努力のなかで大陸から導入された薄手で軽い「新毛織物」が登場したのである。この新しい製品は地中海向けの輸出品目となり「ロンドン」と呼ばれた。

絹織物は古代以来ヨーロッパの富裕な人々を飾ってきた。中国の漢で製造された絹織物は、シルクロードを経由してローマ帝国まで至り非常に珍重された。ただし、漢の絹織物は古代ローマの遺跡では出土しておらず、^⑦ 出土したのはシリアの隊商都市においてである。中国の絹織物は時代を通じて重要な輸出品であった。明代になると、長江下流域において桑の栽培や養蚕がさかんにおこなわれるようになった。絹織物は陸のシルクロードをたどるのみならず、^⑧ フィリピンとメキシコとのあいだを往復したガレオン船によって運ばれ、ヌエバ・エスパーニャで絹ブームをひき起こした。清代にも、絹織物は生糸や 陶磁器などとともに輸出された。^⑨

綿布もまた中国の主要な輸出品だったが、17世紀の後半になると、インド産の綿布がイギリスで衣服や家具に用いられて大人気商品になったことはよく知られている。インド産綿布は、洗濯しやすいうえに、軽くて、染めやすいこと、安価であることに加えて、それを輸入していた（ E ）の巧みな販売戦略もあって、まさに一世を風靡した。そして、^⑩ インド産の綿布に質量とも匹敵する製品を作ることが、イギリスの産業界の悲願となり、一連の技術革新を促したといわれている。綿花は現在も世界各地で生産されており、もっとも重要な植物性の繊維原料である。ただし、その大規模栽培が自然を破壊することもある。1960年代以降のソ連において、綿花の大規模な生産のために灌漑目的の取水が大規模に行われた結果、消滅の危機に瀕しているアラル海はその例である。

設問

- ① この貿易に携わった、北海・バルト海商業圏を支配した商人たちは何と呼ばれるか。
- ② このときのフランス国王、ケベックの位置、ケベックの建設者名の正しい組み合わせを（イ）～（ホ）のなかから選び、記号で答えなさい。

| | | |
|------------|-------------|--------|
| （イ）シャルル7世 | ハドソン湾南岸 | カルティエ |
| （ロ）フランソワ1世 | ラブラドル半島 | シャンプラン |
| （ハ）アンリ4世 | セントローレンス川河口 | シャンプラン |
| （ニ）ルイ13世 | プリンスエドワード島 | カルティエ |
| （ホ）ルイ14世 | ミシシッピ川中流 | グロゼイエ |

- ③ この移動を招いた政治上・宗教上の事件は何か。
- ④ 社会的地位を向上させたイギリスの農民は何と呼ばれたか。
- ⑤ この都市名を答えなさい。
- ⑥ この戦争は何と呼ばれるか。
- ⑦ この隊商都市を次の語群から選び、記号で答えなさい。

| | | |
|---------|---------|-----------|
| （イ）バビロン | （ロ）カルタゴ | （ハ）サマルカンド |
| （ニ）パルミラ | （ホ）バクトラ | |

- ⑧ この貿易航路はメキシコの港の名前を冠される。この港の名を答えなさい。
- ⑨ 陶磁器生産の中心地としてとくに宋代以降発展した、江西省北部の地名を答えなさい。
- ⑩ 19世紀のイギリス綿工業にとって最大の原綿供給地となった国の名を答えなさい。

IV 以下の文章（イ）～（ホ）を読んで、空欄（ A ）～（ J ）にもっとも適切な語句を記入しなさい。

（イ）世界に先駆けて石油産業を発展させたのは、アメリカである。1850年代前半にペンシルヴァニアで油田が発見されてからしばらくの間、石油は主として照明用の灯油として使われていた。しかし、20世紀に入って自動車産業がさかんになってくると、内燃機関の気化燃料として使われるガソリンの重要性が高まった。これをうけて石油の精製、輸送、貯蔵、流通、そして後には生産をも行う会社を興すのは、（ A ）である。彼は、1870年スタンダード石油会社を設立、その後も数々の関連会社をつくってトラストを結成、石油業界を支配していった。しかし、1890年に制定された

独占を禁ずる反トラスト法の一つである（ B ）法に違反するという判決が連邦裁判所によって出されると、（ A ）が築いた一大企業体はいくつかの会社に分割、解体された。しかし、実際にはスタンダード石油会社の流れをくむ会社は、今に至るまで世界の石油産業を支配するメジャーとして生き残っている。

（ロ）1870年代になると、当時、帝政ロシアの支配下にあったカスピ海西南のアゼルバイジャン、その中心都市バクー近郊でも石油の採掘がはじまった。この地域では古代から石油が地表ににじみ出ていることが知られており、そうしたこともあって火を神聖視するゾロアスター教信仰が盛んであった。この新しい産油地域には帝政ロシア国外からも資本が投下され、大きな石油会社がつくられた。その代表がダイナマイトを発明した（ C ）の兄弟がつくった会社である。ちなみに、この会社に勤める技師の子供の家庭教師としてバクーにやって来たのが若き日のスウェーデンの探検家ヘディンである。彼はこれを機縁に未知なるアジアへの夢をつのらせ、後に今の中国・新疆ウイグル自治区を中心とする地域の探検の旅に乗り出していくことになる。バクーは石油産業の発展にともなって帝政ロシア有数の工業都市に成長したが、それにともなって資本家と労働者の対立も激化した。その結果、ロシア革命が起きると、バクーは首都のペトログラードに劣らぬ革命の舞台になった。ここで一時、社会主義運動・労働運動に参加したのが、後にソ連の指導的政治家になるグルジア人で本名ジュガシヴィリ、通称スターリンである。彼は一国社会主義論を唱え、世界革命論を主張する（ D ）と対立した。

（ハ）第一次世界大戦は石油の需要とその重要性をさらに高めた。この時期に石油を動力源とする新しい兵器が開発された。たとえば、ソムムの戦いではじめて使われた戦車やディーゼル機関で動く潜水艦がそれである。また、馬に代わって武器・弾薬・食糧を運ぶ自動車や偵察用として使われようになった飛行機にも石油は必需物資であった。こうした状況は飛行機、軍艦が主たる戦闘手段になる第二次世界大戦期になるとさらに加速し、各国は競って油田地帯を押さえようとした。ドイツはカスピ海西南のバクー近郊の石油を獲得すべくソ連領内に侵攻した。また、日本はアメリカ大統領ローズヴェルトが発した石油禁輸措置に対抗して、東南アジアの産油地域に進出した。日本が攻撃したのは、マラッカ海峡に面する（ E ）島である。その東岸パレンバンあたりは、1880年代以降オランダ系の石油会社ロイヤル・ダッチによって開発が進められたが、ここに日本は軍隊を送り、占領した。ちなみに、パレンバンは、かつてこの島で仏教が栄えていた頃（ F ）王国の中心地であったところである。日本はこれと並んで南シナ海、マカッサル海峡に囲まれた島にも進出して軍政下に置いた。日本占領以前、この島の油田を開発していたのは、イギリス系の石油会社シェルであった。

(二) 現在、世界でもっとも多く石油を産出しているのは、中東イスラーム世界を構成する諸地域である。しかし、これらの地域で石油が発見されるのはアメリカや帝政ロシアに較べるとはるかに遅く、20世紀に入ってからのことである。1908年イラン西部で油田がイギリス人のダーシーによって発見されたのがその嚆矢である。1890年代のはじめ、イランでは外国の資本・企業に自国の経済的利権をむやみに与えることは国益を損ねるとの思いから（ G ）という民族運動が起こされ、利権廃棄に成功したが、石油にかんしては当時イランを支配していたカージャール朝はダーシーに開発利権を与えた。これをきっかけにアングロ・ペルシア石油会社（後に「アングロ・イラニアン石油会社」と改名）が設立され、採掘から精製、流通まですべてを独占的に行っていた。しかし、第二次世界大戦後、イランで民族主義が高揚すると、イギリス系の会社が石油事業を独占するのは不当であるとの声が高まり、1951年国有化運動が起こされた。その指導者は当時、首相を務めていた（ H ）である。この石油国有化運動が起こされた頃は他の中東イスラーム諸国でも民族主義の意識が高まった時期で、エジプトではムハンマド・アリー王朝を倒して革命政権を樹立したナセルによってスエズ運河が国有化された。

(ホ) イランに次いでアラブ地域のイラク、ペルシア湾岸諸国、サウジアラビアでも油田が発見された。ただ、開発が本格的に行われるようになるのは、第二次世界大戦後のことである。これらの地域における石油の生産と流通は、イギリス、アメリカなどの欧米系の石油会社によって牛耳られていたが、1973年に第四次中東戦争が勃発すると、イスラエルを支援する国々に反感をもつアラブの産油国は、1968年に結成された OAPEC と略称される（ I ）を通じて禁輸措置に踏みきった。これによって世界の石油価格はそれまでの価格の四倍にも跳ね上がり、オイル・ショックが世界を襲った。このような石油供給をめぐる世界的な経済危機は、1979年イラン・イスラーム革命後の混乱期にも繰り返された。

石油は人間生活を豊かにするとともに、資源をめぐる国際的な紛争の種にもなるものである。近年では1990年のイラクによる（ J ）侵攻にはじまる湾岸戦争を例として挙げることができる。（ J ）は、19世紀末イギリスの保護国となり、1960年代初頭に独立を果たしたが、イラクは（ J ）が固有の領土であると主張してそこを併合しようとしたのである。

石油に代わる代替エネルギーが現在、さかんに開発・研究されつつあるが、決定的に代わるものとはなっておらず、石油の重要性はまだまだ続くはずである。